

# U.S. Indicators

発表日: 2024年10月4日(金)

## 米大統領選への懸念を強めるも非製造業の活動は9月に加速

～港湾ストへの懸念もISM景気指数は米経済の秩序だった減速を示す～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:050-5474-7493)

24年9月のISM非製造業景気指数(総合、季節調整値)は、54.9(前月51.4)と前月比3.5%ポイント上昇し、市場予想中央値の51.7(筆者予想51.7)を大幅に上回った。需要動向を示す活動指数、新規受注が高い水準に上昇し、需要の強まりを示す形で、非製造業部門は拡大ペースを加速した。ただし、均してみると非製造業部門は22年をピークに緩やかな減速傾向を辿っている。米国では、製造業部門の調整が長期化するなかで、非製造業部門の拡大ペースの緩やかな鈍化によって、秩序だった景気減速が続いている。

調査対象企業のコメントは、景気指数が示す力強い成長に沿った内容となったが、「政治的不確実性に対する懸念は先月よりも広がっている」と米大統領・議会選挙への懸念を強めていることが指摘された。また、「サプライチェーンが安定し続ける中、供給品の価格設定は依然として問題」とコスト増加圧力の残存が報告されたほか、「ほとんどの業界では、労働コストと労働者の確保が引き続き懸念事項」と、労働者不足や雇用のミスマッチによる賃金上昇圧力の強いことが報告された。

他方、回答の一部で、港湾労働問題に対する懸念が示されていたが、10月3日に米港湾労働者組合の国際港湾労働者協会(ILA)と雇用者団体の米海運連合(USMX)が、賃上げ交渉において6年間に62%の引き上げで暫定合意し、東海岸とメキシコ湾岸の港湾での一斉ストライキの終結を発表した。9月末が期限だった労働協約を25年1月15日まで延長し、未解決の問題を協議する。約半世紀ぶりの大規模ストライキは3日間で終了し、10月4日から港湾が再開され、大規模な混乱は回避される。

非製造業総合指数の構成項目では、雇用が48.1(前月50.2、前月比▲2.1%ポイント)と退職者の補充が難しく縮小を示す水準に低下した一方、活動指数が59.9(前月53.3、前月比+6.6%ポイント)、新規受注が59.4(前月53.0、前月比+6.4%ポイント)、入荷遅延が52.1(前月49.6、前月比+2.5%ポイント)と上昇した。9月の活動指数は18業種中12業種(前月9業種)が拡大し、3業種(同4業種)の縮小にとどまった。また、新規受注は18業種中11業種(前月8業種)が拡大し、3業種(同5業種)の縮小となった。両指数とも拡大した業種数が増加し、縮小した業種が限られており、非製造業部門の需要が強まったことが示された。

総合指数への寄与度では、雇用が前月比▲0.53%ポイントの押し下げ寄与となったものの、活動指数が前月比+1.65%ポイント、新規受注が前月比+1.60%ポイント、入荷遅延が前月比+0.63%ポイントの押し上げ寄与となった。

サブ項目では、新規輸出受注が56.7(前月50.9、前月比+5.8%ポイント)と上昇し、サービス輸出の増加ペースの大幅な加速を示した。一方、輸入は52.7(前月50.3、前月比+2.4%ポイント)と上昇し、サービス輸入の増加幅が小幅拡大したことを示した。

インフレ環境では、仕入価格指数が59.4(前月57.3)と上昇し、インフレの下げ渋りが示された。



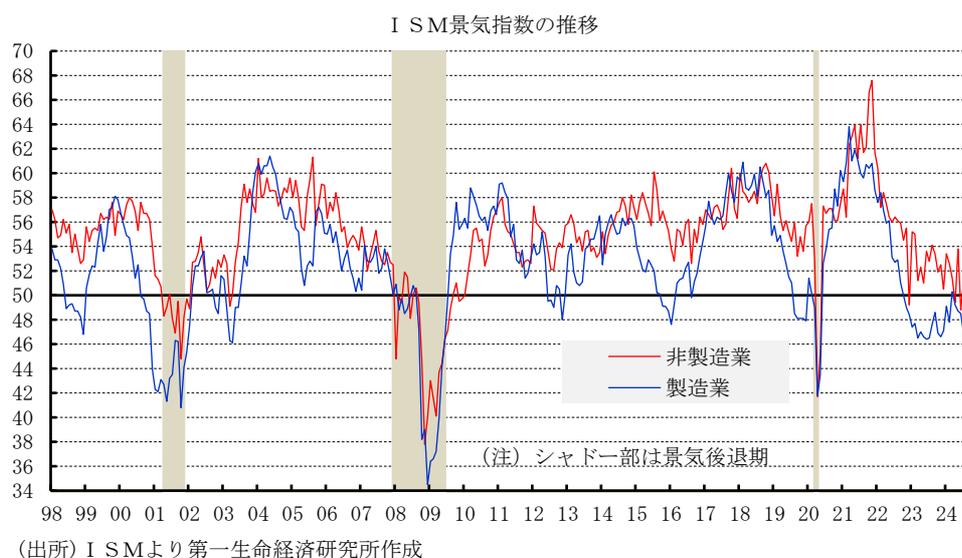
18業種中12業種（前月13業種）と多くの業種で上昇した。鉄鋼製品、燃料が下落した一方、労働コストの継続的な上昇のほか、針葉樹などの木材、換気・空調機器等が上昇した。供給不足の分野として、電気機器、変圧器のほか、労働者、家電製品が挙げられた。

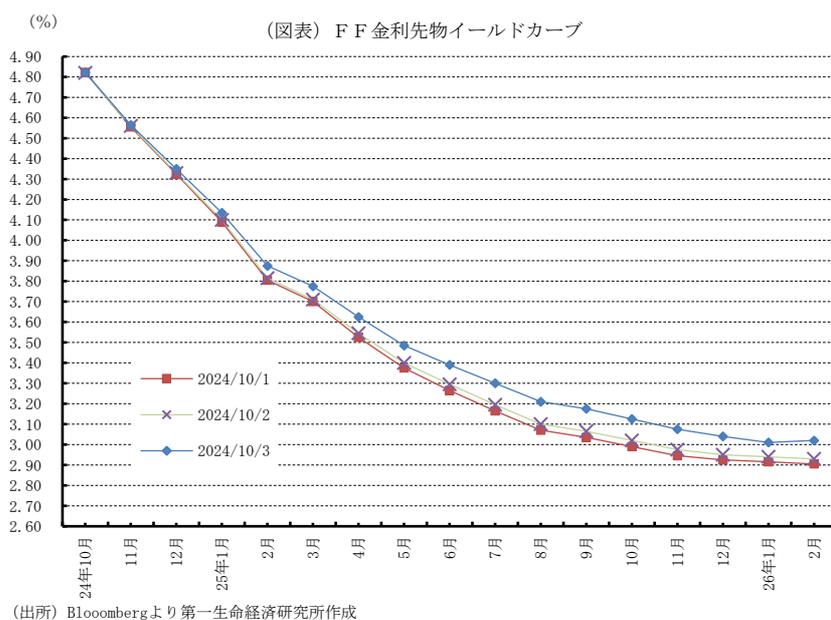
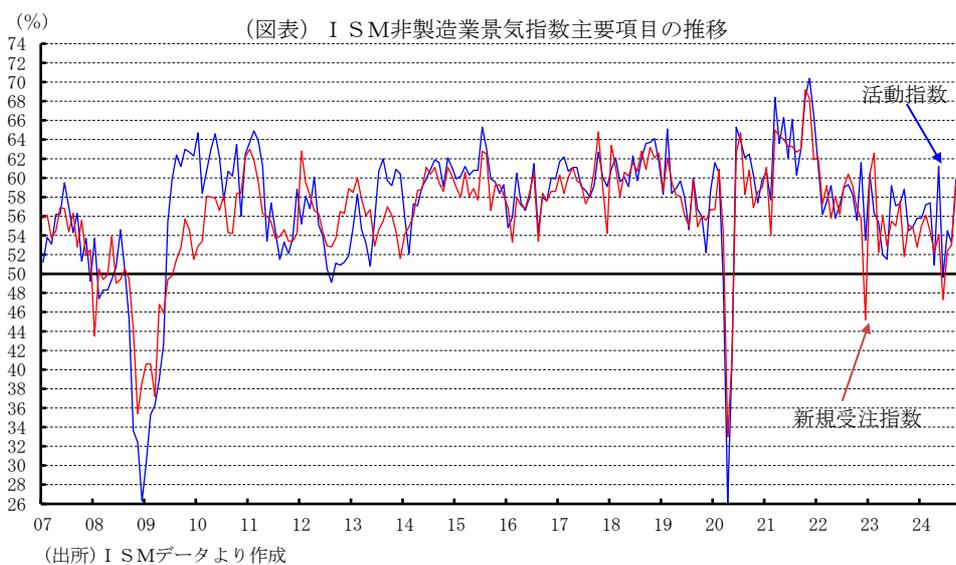
## I S M非製造業景気指数

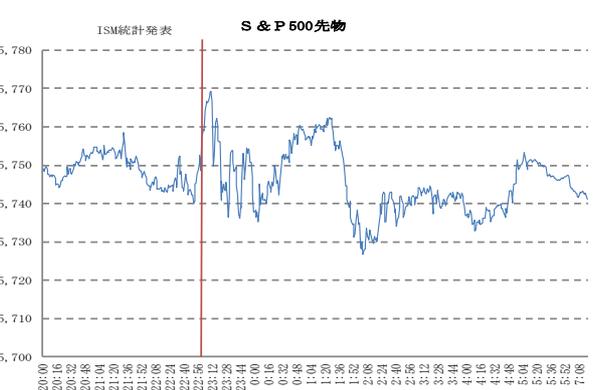
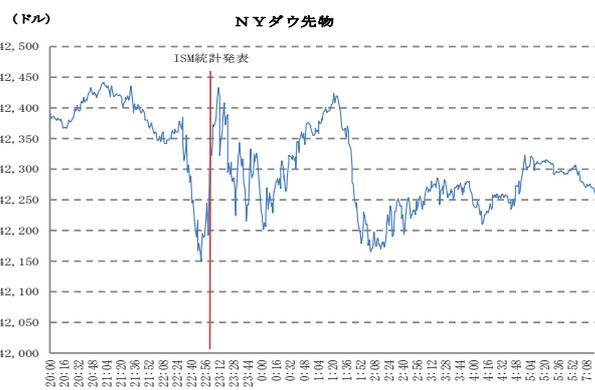
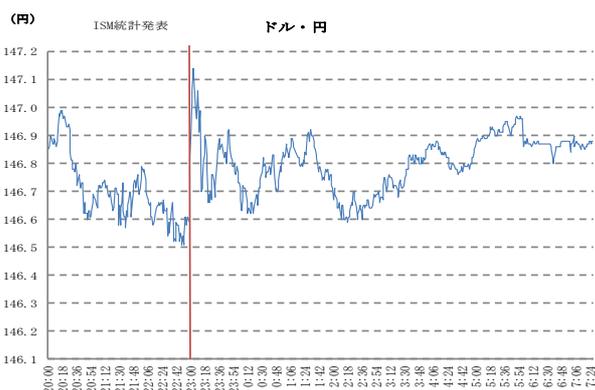
	総合指数	活動指数	新規受注	雇用	入荷遅延	受注残高	仕入価格	新規輸出受注	在庫変動
24/01	53.4	55.8	55.0	50.5	52.4	51.4	64.0	56.1	49.1
24/02	52.6	57.2	56.1	48.0	48.9	50.3	58.6	51.6	47.1
24/03	51.4	57.4	54.4	48.5	45.4	44.8	53.4	52.7	45.6
24/04	49.4	50.9	52.2	45.9	48.5	51.1	59.2	47.9	53.7
24/05	53.8	61.2	54.1	47.1	52.7	50.8	58.1	61.8	52.1
24/06	48.8	49.6	47.3	46.1	52.2	44.0	56.3	51.7	42.9
24/07	51.4	54.5	52.4	51.1	47.6	50.6	57.0	58.5	49.8
24/08	51.5	53.3	53.0	50.2	49.6	43.7	57.3	50.9	52.9
24/09	54.9	59.9	59.4	48.1	52.1	48.3	59.4	56.7	58.1

9月に拡大した業種数は、18業種中12業種（前月10業種）と増加した。拡大した業種は、強い順に、不動産・賃貸・リース業、企業向けサービス、宿泊・飲食サービス、鉱業、公的部門、医療・社会支援、金融・保険、建設業、運輸・倉庫、情報産業、教育サービス、公益と続いた（下線は拡大・縮小が2カ月以上続いたことを示す）。一方、縮小した業種は、その他サービス、農林水産業、卸売業、専門・科学・技術サービス、小売業の5業種（前月7業種）に減少した。なお、芸術・娯楽・レクリエーションは変わらずとなった。

米国経済全体の景気動向を示す「ISM総合景気指数（非製造業景気指数と製造業景気指数の合成）」は、9月に54.1（前月51.1）と大幅に上昇し、拡大ペースの加速が示された。四半期では、7－9月期の製造業が47.1と4－6月期の48.8を下回った一方、非製造業が52.6と4－6月期の50.7を上回った。この結果、7－9月期のISM総合景気指数は、52.0と4－6月期の50.5から上昇し、7－9月期の緩やかな景気拡大の持続を示唆している。







本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。